

たいよう新聞

487号

8月10日発行

2026年

安全大会レポート 第2弾

労働災害の防止と安全意識の向上に向け、2026年6月に
当社の静岡、大阪、九州の3支店で安全大会が開催されました。
各会場では協力会社の皆様との対面による親睦や講話を通じて連携を強化し、
全員で無事故・無災害の現場づくりへの決意を新たにした、安全大会レポート第2弾です。

静岡支店



静岡支店 工事部 課長

Iさん

開催日: 2026年6月19日

実施場所: 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」 第1研修室

プログラムの内容: 支店長挨拶、社長挨拶、駿洋会(すんようかい)会長挨拶、安全講話、安全表彰、安全宣言、閉会挨拶

安全講話と現場の交流

知識の習得と対面での親睦

労働災害防止と安全意識の向上を目的に毎年安全大会を開催しており、今回は当社社員・協力会社合わせて約40名が参加しました。外部講師による講話では「現場の参加と安全管理」をテーマに約1時間学び、事故が発生する要因やその具体的な防止策について理解を深めました。

また、年に一度の大会は協力会社の皆さんと集まる貴重な機会です。懇親会でも和気あいあいと親睦を深めました。直接会うことが、現場の円滑な意思疎通につながると感じています。



▲安全講話



▲駿洋会会長挨拶

総括

規律ある関係の構築

講話での学びを静岡支店の現場にしっかりと共有し、全員で安全作業を徹底します。危険を防ぐには日頃のコミュニケーションが不可欠で、お互いの距離が近ければ不安全行動もより指摘しやすくなるはずです。ただし関係が慣れ合いにならぬよう「親しき仲にも礼儀あり」の精神で、言うべきことは毅然と言える規律ある関係を築きます。



安全表彰▶

大阪支店



大阪支店 環境開発部

Tさん

協力会社と安全意識を共有

交流を深め、信念を学ぶ

本大会には、当社社員と協力会社の方々を合わせた約60名が参加しました。普段はなかなか会う機会がない協力会社の皆さんと顔を合わせ、親睦を深める良い機会となりました。

特別講話では、元オリンピック水泳選手の千葉すずさんをお招きし、「熱き心でモチベーションアップ」と題してご講演いただきました。ご自身の信念を貫いて行動された現役時代のお話が非常に印象に残りました。組織の一員として業務にあたる上で、自らも確固たる信念を持って日々の業務に取り組むことが大切であると改めて学びました。



◀安全表彰



▲六鹿社長挨拶

開催日: 2026年6月23日 実施場所: 高槻商工会議所

プログラムの内容: 太友会(たいゆうかい)会長挨拶、支店長挨拶、社長挨拶、安全表彰、特別講話、安全宣言



▲千葉すずさんによる講話

総括

小さな違和感を見逃さず無事故を誓う

社長の挨拶にあった「現場での慣れは恐ろしい」「明日は我が身」という言葉を聞き、改めて身の引き締まる思いがいたしました。現場での事故を未然に防ぐためには、作業中に生じる小さな違和感を見逃さない姿勢が重要です。今後も安全を最優先とし、無事故・無災害の現場づくりに取り組みます。

九州支店



九州支店 工事部 課長

Hさん

安全への意識を高める

表彰による連携強化と健康知識の習得

労働災害の防止や安全意識の向上を目的に、九州支店の安全大会を開催し、総勢60名が参加しました。日頃の丁寧な仕事ぶりや安全活動への貢献を称え、協力会社の皆さんと当社社員の表彰を実施したほか、外部講師による健康チェックと講話を実施。表彰を通じて協力体制をより強固なものにし、講話では熱中症対策など日常生活にも役立つ豆知識を学びました。

総括

協働の意識で築く確かな安全

社長の「共に協働、成長していこう」という挨拶で、会場は真剣な空気に包まれました。家族や仲間が無事に過ごせるのは当たり前ではなく、日常の少しの違和感が大きな事故に繋がります。「これくらいは大丈夫だろう」という安易な考えを捨て、小さな違和感を見逃さないことの重要性を全員で共有しました。懇親会では一転して和やかに交流し、顔が見える距離での会話で連携強化を図ることができました。今後も全員で声を掛け合いながら安全な職場と家庭を守ります。私は入社して3年目になりますが、個人や家族を大切に、年齢や立場に関係なく高め合える当社の社風に日々感謝しています。「技術や品質を向上させ、信頼を得る」という長期的な目標に対し、社員全員が協働して取り組む姿勢には、他社を経験してきた身として「こんないい会社があるのか」と驚かされました。このご縁に感謝し、私自身も「入社してよかった」と言ってもらえるような人材を目指して精進します。

写真左/
安全表彰
写真中央/
六鹿社長挨拶



開催日: 2026年6月24日

実施場所: 博多ターミナルホール9階

プログラムの内容: 社長挨拶、支店長挨拶、博太会会長挨拶、安全表彰、特別講話、安全宣言

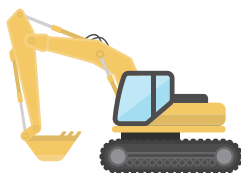
最前線レポート

鳴海川河川改修工事 第1工区

当社が担当したさまざまな現場を紹介するこの企画。今回は長野県千曲市での鳴海川河川改修工事をレポートします。地域を水害から守るため、最前線で難工事に挑んだ現場の奮闘を追いました。

現場概要

現場名	2025年度 緊急自然災害防止対策事業 鳴海川河川改修工事 第1工区
施工期間	2025年10月～2026年7月末
場所	長野県千曲市戸口
発注者	千曲市役所 道路河川課
元請	株式会社武田組
現場の人数	太洋基礎工業 1 名、協力会社全体で日当たり平均 8 名
施工目的	既存水路を取り壊し、断面が約 2 倍の新設ボックスカルバートを据え付ける水害対策工事。また、開削工法による L 型擁壁と大型フリュームの据え付け、オープンシールドの到達立坑掘削、補助工法としての薬液注入工を行う。



長野支店 工事部 課長 Nさん



現場の特徴

市のビッグプロジェクトで採用した「オープンシールド工法」

最大の難所は、民家や構造物が既存水路に近接する約40mの区間。通常の開削工法では家屋への影響が大きいため、土留め併用型のオープンシールド工法を採用しました。全長10mの先導体を組み立てて掘進する大掛かりな工法であり、2期にわたる本工事は千曲市としても大規模なプロジェクトです。通常の施工が困難な超近接路線を安全に工事するための重要な役割を果たしています。

苦労した点と乗り越え方

家屋への影響と重機の振動を抑制

マシン圧入時は外側に隙間ができないよう砂や碎石を充填し、注入薬液の圧力管理を徹底しました。地上からの目視確認を重ねて、周辺家屋や環境への影響を最小限に抑えています。また、地盤が粘性土のため振動対策も不可欠でした。既存水路の解体には大型油圧ブレイカーを使用せず、振動の小さい油圧圧砕機を採用。狭いスペースでの効率向上のため、ワンタッチで交換できる「クイックヒッチ」を導入し、工程を2週間短縮できました。



▲マシン解体状況

施工を終えて

役割の付与で促した作業員の成長

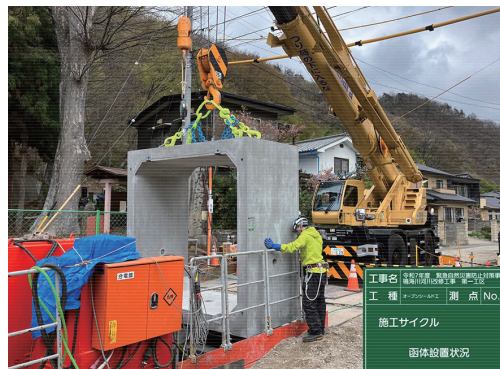
協力会社が複数集まる中、作業員一人ひとりが主体性を持てるよう、各作業において責任者の役割を担っていただきました。最初は意見をうまく発信できず戸惑う姿も見られましたが、現場全体で声を掛け合いコミュニケーションを重ねる中で、皆さんが自ら段取りを組み、作業工程を工夫して能率を高めるまでに意識が変化しました。最終的には互いに教え合うような頼もしい姿も見られ、それぞれが大きな自信に繋がったようです。互いの得意分野を活かして補い合える強固なチームワークが築かれ、現場には活気があふれていました。



▲マシンフロント部の掘進状況



▲マシンテール部の推進状況



▲函体設置状況



印象深かった出来事

独自の排水管理で大雨を克服

施工期間中は雨が多く、枯葉や小枝が仮排水ポンプに絡まり排水能力が低下する事態に悩まされました。対策として、水位上昇に合わせて段階的に起動するよう、水中ポンプを効率的に配置・運用しました。また、稼働させるポンプを定期的に入れ替えてゴミ詰まりを解消したほか、休日や夜間のメンテナンスを重ねることで厳しい気象条件を乗り越えました。

トラブルを防ぐ管理とチーム体制

入社時から、常にベストな状態で業務に取り組めるよう体調管理を徹底しています。原点は学生時代の部活動にあり、「自身の体調不良による休みは、チーム全体に迷惑をかける」という学びから強い責任感を培いました。現場においては、協力会社の方々と密にコミュニケーションを取り、早め早めの情報伝達と丁寧な工程管理を心がけることで、トラブルを未然に防いでいます。

また、業務で壁にぶつかった際は、一度視点を変えて状況を俯瞰し、冷静に対処するよう意識しています。後輩の指導においても頭ごなしに叱ることはせず、年齢の近い社員を介して情報を共有するなど、誰もが気軽に相談できるサポート体制を構築しています。何よりも人間関係を第一に考え、お互いが信頼し合える環境づくりに努めています。

「温故知新」をモットーに成長を目指す

座右の銘は「温故知新」です。当社が培ってきた伝統的な技術や昔からの教えを大切にしながら、新しいことにも積極的にチャレンジする姿勢を重視しています。現在は現場でもIT化が進み、スマートフォン一つで図面などを瞬時に確認できるようになりました。過去の優れた技術を受け継ぎつつ、新しいツールを武器として取り入れることが、当社の成長に繋がっています。今後も協力会社の方々と確かな信頼関係を築き、より良い現場をつくります。

声援



九州支店 佐賀営業所 所長

Tさん

社長メッセージ 令和8年度安全大会

日頃より、現場の第一線で安全作業を行っていただき、当社の事業を支えてくださっている社員・協力業者の皆様へ心より感謝申し上げます。

昨今の当社の作業環境を振り返りますと、大型重機を複数台使用する現場・狭小地での複雑な作業・夏の酷暑など、常に危険と隣り合わせの状態となっております。「慣れは恐ろしいもの」です。昨日までは大丈夫だったから今日も大丈夫だろう、という根拠のない自信が取り返しのつかない事故を招きます。現場に潜む「小さな違和感」を見逃さないでください。その違和感こそが、重大事故を防ぐ最後の砦なのです。

今年も7月1日から1週間「全国安全週間」が実施されました。今年度のスローガンは、「**多様な人材 全員参加 みんなで育てる安全職場**」です。この言葉には、年齢・経験・立場・所属の違いに関係なく、全員が主役となって「**安全職場を作っていく**」という強いメッセージが込められています。安全は、誰か一人が頑張れば守れるものではありません。現場で働く全員が関わり、声を出し、行動することで、初めて安全は守られるものです。

3年程前に安全パトロールで訪問した、新潟駅前の現場トイレに掲示されていたメッセージを紹介させていただきます。

安全は、ひとり一人が責任者

安全管理の原点は「人間愛」です。

法律が言うから安全作業をするのですか？

元請が言うから安全作業をするのですか？

「あなたがケガをしない」

「仲間にケガをさせない」

「妻や子、家族を悲しませたくない」

「継続して安定した生活の糧を得たい」

そしてなによりも「命は二度と再生できない」

だから安全作業が必要なのではないでしょうか？

安全に対する考え方の参考にしていただければと思います。

最後になりますが、安全大会で感じたこと・学んだことを、明日からの現場での行動に活かしてください。そして「**全員が無事に帰る**」、この当たり前のことを、当たり前を守り続ける会社でありたいと思います。

皆さん一人ひとりの安全行動が会社の信頼をつくり、未来の太平洋基礎工業を支え、皆さんの生活を守ることに繋がります。「**安全最優先**」を全員で実行していただくことをお願い申し上げ、メッセージとさせていただきます。

「ご安全に！」

むつが としや
代表取締役社長 六鹿敏也